

● 診療科の特色

1. 総合周産期母子医療センター

私たちの施設は、2005年に新生児科とともに岡山県から総合周産期母子医療センターに指定されて以来、麻酔科をはじめ各科のバックアップをいただきながら、他の周産期センターと協力して、岡山県の母子保健の向上に努めてきました。当院は、小児外科も充実しており、多数例の小児外科疾患を胎児期から小児外科医とともにフォローさせていただいています。

私たちの施設では、奇形をもった児や早産などで出生後NICUに入院となる児の両親には、新生児科や小児外科から予想される出生後の児の状況について説明をしてもらうことを大事にしています。ご両親は、自分のこどもが出生後にどのような治療を受け、どのように育っていくか、について心配されています。ご両親にとってすごく大切なことと考えています。

● 入院診療実績

1. 婦人科 主要手術

年間手術件数 67 件

	手術名	件数
1	子宮頸部円錐切除術	26
2	子宮附属器腫瘍摘出術(腹腔鏡)	11
3	腹式単純子宮全摘術(ATH)	7
4	膣式単純子宮全摘術(LAVH)	5
5	附属器腫瘍摘出術(開腹)	3
6	膣式単純子宮全摘術+膣会陰形成術	3
7	子宮内膜ポリープ切除術	2
8	子宮筋腫核出術(腹腔鏡)、(子宮鏡下)	2
9	腹式単純子宮全摘術-全腹腔鏡下-(TLH)	1
10	子宮内膜搔爬術	1

2. 産科診療実績

総分娩数 328、出生児数 377(死産 6)、多胎分娩数 47(双胎 45、品胎 2)でこの年度の帝王切開率は 39.6%でした。以前に比べると増加傾向にあります。原因として母体年齢の高齢化と多胎妊娠における分娩割合の増加が考えられます。母体年齢の高齢化は著しく、昨年は全体の約半数(40%)を 35歳以上の妊婦が占め、40歳以上の妊婦では 14%を占めています。また、近年は全国的に出産数が減少しています。当院も分娩数は減少していますが、その中で多胎妊娠の割合が増えています。当院の帝切率は周産期センターの中では全国的にみても低率のグループで、既往帝切後の経膣分娩や双胎妊娠の経膣分娩、未熟児や低置胎盤の経膣分娩など、できるだけスタンダードな分娩を目標にしてきた結果と考えています。しかし、こういった分娩は緊急帝王切開のリスクや出生時の児のリスクも高いため、麻酔科医や新生児科医の昼夜を問わないバックアップが必要であり、各科の協力体制の賜物と言えます。

3. その他

多胎妊娠は、単胎妊娠に比べ妊娠および分娩におけるリスクが高いため、2016年10月より、毎週火曜日と水曜日、金曜日の午後に多胎外来を設置し、専属医師による継続的な管理を行い、必要があれば適宜、入院していただき、より厳密な管理を行っています。近年の分娩数減少の中で、多胎妊娠の割合は増加傾向にあります。

● 研究業績

論文発表

- 1) M. Hayashi; R. Oi; K. Otsuki, N. Yoneda; T. Nagamatsu; R. Kumasaka; K. Miyakoshi; H. Aoki; K. Tanaka; K. Kumazawa; A. Ohkuchi; Y. Matsuda; A. Nakai
Effects of prophylactic vaginal progesterone administration on mild cervical shortening (TROPICAL study): a multicenter, double-blind, randomized trial.
Investigative and Clinical Urology, 28, 1-7, 2021 June
- 2) EN. Arai; S. Yoned; N. Yoned; M. Ito; S. Tsuda; A. Shiozaki; T. Nohira; H. Hyodo; K. Kumazawa; T. Suzuki; S. Nagasaki; S. Makino. S. Saito
Probiotics including Clostridium butyricum, Enterococcus faecium, and Bacillus subtilis may prevent recurrent spontaneous preterm delivery.
The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2022 Jan
- 3) 近藤厚生, 多田克彦, 和田誠司, 横峯正人, 石川浩史, 加藤聖子, 味村和哉, 宮内彰人, 佐世正勝, 伊藤知敬, 師田信人, 伊地俊介.
葉酸による神経管閉鎖障害の予防: 発生率, リスク因子, 葉酸サプリメントの摂取, 行政への要望.
日本周産期新生児医学会雑誌, 57 巻 1 号, 8-18
2021年5月1日
- 4) 近藤厚生, 多田克彦, 和田誠司, 佐世正勝, 石川浩史, 師田信人, 伊地俊介, 伊藤知敬.
神経管閉鎖障害は唯一予防可能な先天異常疾患.
日本周産期新生児医学会雑誌, 31 巻, 357~362
2021年9月1日
- 5) 上田菜月, 多田克彦, 野呂瀬一美, 中村 信, 熊澤一真.
検査キットにより検査値の差が大きかったトキソプラズマ IgM 抗体持続陽性の妊婦症例.
日本周産期新生児医学会雑誌, 57 巻 3 号, 511~515
2021年12月1日
- 6) 中村一仁, 沖本直輝, 熊澤一真, 立石洋子, 大岡尚実, 相本法慧, 多田克彦.
双胎の子宮頸管短縮症例に対し子宮頸管ペッサリ一留置中に大量出血を伴う腔壁裂傷を認めた一例.
現代産婦人科, 70 巻 1 号, 117~121
2021年12月1日

学会

- 1) 多田 克彦
新しい FDP 基準値の適用による常位胎盤早期剥離における既存の DIC 診断基準の診断能力の比較
第 43 回日本血栓止血学会
2021年5月29日
- 2) 多田 克彦
新しい FDP 基準値の適用による常位胎盤早期剥離における既存の DIC 診断基準の診断能力の比較
第 31 回日本産婦人科新生児血液学会
2021年6月5日
- 3) 吉田 瑞穂
羊水過多, 胎児甲状腺腫大を認め臍帯静脈穿刺を行なった 1 例
日本超音波医学会第 57 回中国地方会
2021年9月4日
- 4) 多田 克彦
新しい FDP 基準値の適用による常位胎盤早期剥離における既存の DIC 診断基準の診断能力の比較
第 73 回中国四国産科婦人科学会
2021年9月19日

5) 川口 優里香
羊水過多, 胎児甲状腺腫大を認め臍帯静脈穿刺を行なった 1 例
第 507 回岡山県産婦人科専門医会 2022 年 1 月 16 日

6) 多田 克彦
分娩時大量出血における希釈性凝固障害の臨床データの特徴: 多施設共同後ろ向き症例集積研究
第 57 回日本周産期・新生児医学会 2021 年 7 月 13 日

講演会

1) 沖本 直輝
胎児発育不全の循環動態を知る
日本超音波医学会第 57 回中国地方会/第 20 回中国地方会講習会 2021 年 9 月 4 日

座長

1) 第 73 回中国四国産科婦人科学会 2021 年 9 月 19 日
一般演題 第 12 群 周産期 6 周産期統計
熊澤 一真